

平成31年3月27日

永平寺町長 河合永充様

永平寺町幼稚園・幼稚園施設再編検討委員会
委員長 松川恵子

永平寺町幼稚園・幼稚園施設再編について（答申）

平成30年9月20日付、諮問のあったことについて、慎重に審議を行った結果、次のとおり答申します。

記

近年の社会状況、就労形態や家族形態の変化をみると、子どもたち、特に就学前児童を取り巻く環境は大きく変化しています。また、保護者の乳幼児教育・保育に対するニーズも多様なものとなり、幼稚園・幼稚園に求められる役割も大きく変化しています。

このような変化に対応し、人格形成にとって最も大切な時期である乳幼児期の教育・保育を行うにあたって、家庭、幼稚園・幼稚園、地域及び行政が互いに連携し、子どもたちの健全な心身を育て、見守ることは大変重要なことです。

この度、諮問を受けた永平寺町における幼稚園・幼稚園施設再編に関することについて、平成30年9月から6回の審議を経て、慎重に検討を重ねた結果、施設再編については、就学前児童の人口推移や保護者の就労状況の変化、地域の状況等を踏まえた上で、多角的な視点から検討を重ね、子どもの育ちにとってよりよい環境を確保していくことが必要であると考えます。

については、貴職におかれては、本答申を受け、子育て家庭に十分な配慮を行った上で、施設再編について検討され、子どもの育ちにとってよりよい環境を確保していくという目的が達成できるよう、最善の努力をされるよう望みます。

(1) 幼稚園・幼稚園における乳幼児教育・保育のあり方

核家族化の進行、共働き世帯の増加、少子化等、近年子どもを取り巻く環境は大きく変化しています。永平寺町においても子ども数の減少、保護者の就労状況の変化、園舎の老朽化等、これらの課題に対応した乳幼児教育・保育のあり方が求められています。

永平寺町幼稚園・幼稚園施設再編検討委員会では、「ともに学び ともに育つ」ことのできる乳幼児教育・保育環境について審議しました。

①人との関わりの中で、思いやりや協力の精神が育つ環境

幼稚園・幼稚園は、多様な考えをもつ友だちと切磋琢磨することで主体的に学びを拓き、深めることができる施設であることが望まれます。さまざまな保育士・教諭、友だちとの関わりを通して、人を思いやるこころ、円滑な人間関係を築く力を育み、互いに協力し合う集団やクラス・グループづくりやその良さについて学ぶことができる環境が確保されることが必要であると考えます。

②遊びを通して楽しく学び、小学校での生活にスムーズに移行できる環境

乳幼児期は生涯にわたる人格形成の基礎を培うとともに、義務教育以降の学習の基盤を培う大切な時期です。

幼稚園・幼稚園では、友だちとの「遊び」を通じて、互いの思いや考えを共有し、共通の目的の実現に向けて協力してやり遂げる協同性を育み、規律性・協調性・社会性などを身に付けられる環境が確保されることが必要であると考えます。

③保育者と園児、保護者が十分にコミュニケーションを図り、ともに成長できる環境

近年全国的に保育士不足が問題となっており、今後の永平寺町においてもより深刻な課題となることが予測されます。保育士の不足は、受け入れ園児数の制限や保育士一人あたりの業務負担の増大、研修等の時間が確保できないことによる専門性の低下などにつながる恐れがあります。また、高い専門性を備えた保育士であっても、人員不足を理由に、十分にその能力を発揮できなくなる懸念があります。

そのため、本検討委員会では、保育士・教諭が園児一人ひとりの育ちに十分に寄り添うことができ、保育士・教諭と保護者が、子どもの育ちについても十分に話し合い、両者がともに安心して働くことのできる環境が維持される人員配置、体制が維持されることを望みます。

(2) 幼稚園・幼稚園の1クラスの適正人数

適正な人数規模については、園児の育ちへの効果や保護者及び地域の考え、園の現状や財政など、多角的視点から検討する必要がある、慎重に審議を重ねていく必要があります。

幼稚園・幼稚園では、それぞれの人数規模に応じた特色ある乳幼児教育・保育が展開されており、少人数であることが必ずしもデメリットとなるわけではありません。しかし、一定の園児数の中で、子ども同士の遊びを通して得られる経験、体験の機会を確保することは園児の育ちにとって重要であると考えます。

施設再編検討の中で実施した保護者対象アンケート調査によると、同年齢で園児数が少ないと不安を感じる人数は10人以下が74.1%、多いと不安を感じる人数は60人以上が54.9%でした。このことから、子どもたちを一定の園児数の中で教育・保育してほしいという保護者のニーズがうかがえます。

本検討委員会では、アンケート調査の結果を踏まえ、永平寺町の幼稚園・幼稚園においては、園児一人ひとりに目が行き届き、かつ、家庭や地域では困難な乳幼児教育・保育活動を担う場として望ましい園児数については、3歳児以上の同年齢の1クラスの園児数は20人程度が適正であると考えます。

(3) 幼稚園・幼稚園の適正配置

多くの子どもにとって幼稚園・幼稚園生活は、家庭から離れて同年代の幼児と日々一緒に過ごす初めての集団生活となります。幼稚園・幼稚園では、遊びを通して人格形成の基礎を培っており、適正配置にあたっては、教育上望ましい集団生活が行えるよう環境を整備することが重要です。このように、永平寺町の就学前児童の人口動向、地域的なバランス、施設の状況、保護者ニーズや地域の理解などから総合的に判断し検討していく必要があります。

①子どもたちの安全を第一に、のびのびと活動できる環境づくり

すべての子どもたちが安全・安心かつ良好な環境で活動することができるよう、十分な配慮がされることを望みます。

②通園に関する配慮

近年、幼稚園・幼稚園は車での通園者が増えていますが、古い園舎や周辺環境によっては、十分な広さの駐車場を確保することが難しい園もあります。登園・降園時間など、車が集中して園に到着する時間もあり、適正配置について検討する場合は、子どもの安全の面からも、通園しやすい環境を整えるために、駐車場の確保等についても検討する必要があります。また、きょうだいで同じ園を希望していたにも関わらず、抽選で別の園になってしまう場合、保護者の通園負担も大きくなることから、同じ園に通えるような規模・配慮が検討されることを望みます。

③まちづくりの視点に立った適正配置の検討

永平寺町では、総合振興計画やまち・ひと・しごと創生総合戦略等、各種計画に基づき、子育て世代の移住・定住を促す施策を進めています。適正規模の検討では、人口減少・少子化に対応した乳幼児教育・保育環境を整備することを中心に議論しましたが、子育て世代に選ばれるための質の高い乳幼児教育・保育の提供など、人口減少に歯止めをかけるための積極的な取り組みも必要であると考えます。

(4) 幼児園・幼稚園の運営のあり方

①幼児園・幼稚園の保育士・教諭等の働き方

前述のように、近年、全国的に保育士不足が叫ばれており、永平寺町においても例外ではありません。保育士確保のために、永平寺町で働く保育士が充実感を持ち、楽しく乳幼児教育・保育に取り組むことのできる環境が必要であり、正規職員の確保と効率的な配置等について検討が必要です。

②公立・民間としての運営について

永平寺町は、これまで幼児園・幼稚園は公立で運営をしており、保護者や地域住民からは、公立運営による公平性と信頼感が支持されています。一方、民間による運営の場合は、公立では難しい多様なサービスの展開が期待できることから、保護者の選択肢の一つとして、検討することも必要です。

③地域の子育て支援拠点としての運営について

永平寺町は、県内でも最も早く子ども・子育て支援に取り組んだ自治体の一つであり、「子どもの健やかな成長」を行政の重要施策としています。施設再編等が実施された場合においても、子ども一人ひとりの発達や特性に応じた乳幼児教育・保育が展開され、すべての子どもが健やかに、豊かに成長できる環境が必要です。

また、永平寺町では、現在、幼児園・幼稚園や子育て支援センター、子育て広場等、多様な主体が園児や地域の子育て家庭への支援に取り組んでいます。施設再編の検討にあたっては、今後、地域の子育て支援をどのように展開していくかを検討したうえで、現状の幼児園・幼稚園に加えて、地域における子育て支援を行う機能を備えた「認定こども園」という選択肢も含めて検討することが必要であると考えます。

(5) 地域における幼児園・幼稚園のあり方について

幼児園・幼稚園は、様々な園行事や交流の機会を通して、地域に密着した運営を進めてきました。一方で、園児の減少に伴い、徐々に地域との関係が薄れてきているという声もあります。永平寺町では、子どもは園、家庭、地域の協働で育つ、地域の宝であるという認識のもと、園、家庭、地域の3者がすべての子どもの育ちを支えていくことを望みます。
